

吉野川水系河川整備計画 委員による現地調査を実施

- ▶国土交通省四国地方整備局では、吉野川水系において、今後概ね30年間で実施する河川整備の目標と内容についてまとめた吉野川水系河川整備計画を平成21年8月28日（平成29年12月20日に変更）に策定し、これに基づき河川整備を進めているところです。
- ▶河川整備計画の策定を受け、計画に基づき河川整備等を実施していますが、流域の社会情勢の変化、事業の進捗状況、河川整備に関する新たな視点などを適切に反映する必要が有ります。
- ▶そのため、河川整備計画の点検として、河川に精通している学識経験を有する者から構成される「吉野川学識者会議」の委員による現地調査を平成31年2月8日に9名の委員により行い、現地においてご意見をいただきました。

□開催日時：平成31年2月8日（金）11：00～17：30

□開催場所：【事前説明】徳島河川国道事務所・【現地調査】管内各事業箇所



事前説明の状況



現地調査の状況

吉野川学識者会議 委員名簿

氏名	専門分野	所属
池田 早苗	水質 (水環境)	徳島大学 名誉教授
渦岡 良介	地盤工学・地震工学	京都大学防災研究所 教授
角道 弘文	農業水利	香川大学創造工学部 教授
鎌田 磨人	生態系管理 (生態学)	徳島大学大学院 教授
河口 洋一	魚類学	徳島大学大学院 准教授
木下 覺	植物分類学	徳島県植物研究会 顧問
上月 康則	水環境 (環境工学・生態系工学)	徳島大学環境防災 研究センター 教授
小林 實	鳥類	河川・溪流環境 アドバイザー
田中 俊夫	地域福祉	徳島大学大学開放 実践センター

氏名	専門分野	所属
田村 隆雄	治水計画 (森林水文学)	徳島大学大学院 准教授
田村 典子	児童教育	四国大学生生活科学部 教授
中野 晋	沿岸域工学	徳島大学環境防災 研究センター 教授
中村 昌宏	地域経済	元徳島文理大学総合 政策学部 学部長
平井 松午	歴史地理学・歴史 GIS	徳島大学大学院 教授
三神 厚	防災対策 (地震)	東海大学工学部 教授
武藤 裕則	洪水防御 (河川工学・水理学)	徳島大学大学院 教授
大和 武生	文化史・文化財	阿南市文化協会 会長
山中 英生	地域づくり	徳島大学大学院 教授

現地調査場所

ひがし かも
東みよし町 加茂第二地区
(堤防整備)



ひがし さんしょう
東みよし町 三庄地区
(環境整備)



よしのがわ かわしま
吉野川市 川島地区
(維持管理)



まつげ なかせ
松茂町 中瀬地区
(地震・津波対策)



委員からの主なご意見

- ◆築堤や旧吉野川の液状化対策にあたっては、コスト意識を持つことが重要。今後、掘削事業が見込まれるのであれば、発生土の有効活用を検討いただきたい。
- ◆河道の安定化を図るための河道整正については、二極化の改善にもつながり、非常に良い取り組み。しかし、局所的な対策だけでは解決しないため、総合的な土砂動態の把握に今後発展させていくことを期待している。
- ◆子供達が川と接する場所を工夫して整備できれば、川と触れあうことにより、子供達が自然に川の危険性についても学び、ひいては防災意識の向上にもつながると期待される。
- ◆河川整備を進める上で、河道が変化し、水質も変化する可能性があることを十分に理解しておくことが重要。
- ◆現在、無堤部には多くの希少種が存在している可能性が十分考えられる。工事に着手する前には環境調査を実施し、ミチゲーション成功事例を参考に改修工事を進めていただきたい。
- ◆生態系ネットワークについては、食物連鎖の頂点に位置するコウノトリに加えて、第1生産者である植物も含めた生態系への配慮をお願いしたい。
- ◆想定最大規模降雨や計画規模降雨の洪水の浸水リスクだけではなく、例えば、池田水位観測所の流量規模毎の浸水リスクも住民にもしっかりと周知し、避難を促していくことが重要である。
- ◆加茂第二地区は、整備効果を早期に発現させるため、暫定的にHWLの高さで堤防を整備した後に、段階的に計画堤防高さまで整備する手順であることは理解した。一方で、一般住民からすると、暫定的な高さであっても堤防が出来ると完成したように見え、安全になったと勘違いされる可能性が高い。工事説明の際などの機会をとらえて、洪水の時はまず避難が重要ということをしかりと住民に周知していくことが重要である。